

日
々
を
ね
が
う

2025|10|7^{TUE}—12|21^{SUN}

開館時間等：火曜日から 金曜日まで 午前9時30分——午後7時
土曜日・日曜日・祝日 午前9時30分——午後5時

「企画展」
宮城に生きる民俗



カマ神さまと民俗

Well-Being in Miyagi

会場：大崎市図書館

〒989-6162 大崎市古川駅前大通4丁目2-1

TEL：0229-22-0002 観覧料：無料

【問い合わせ先】
大崎市教育部文化財課
TEL：0229-23-2214

火の神としてだけではなく、福の神や家内安全、悪霊退散など、生活を守る神としても信仰されてきた「カマ神さま」。

展示では、古川地域から素材の異なるカマ神さまを紹介します。

2011年の東北地方太平洋沖地震で家屋などが被害を受けたことにより、カマ神さまを手放したお宅もありますが、現在も、市内では先祖から受け継がれてきたものや、新たに製作したものなど、さまざまなカマ神さまを見ることができます。



【鳴子地域：二宮家所蔵】

木製。一般的に、製作年代の古いものは土製の傾向があると言われていますが、このカマ神さまは、裏面に「文化十一年(1814)正月十七日 願生 明島」の墨書きがあります。

現在も、台所に飾られ、正月にはしめ縄とお餅を供えています。



【岩出山地域：氏家所蔵】

木製。目の部分は、面をくり抜き、薄いガラスのようなものに目玉を書いて裏側から押さえています。

大正末～昭和初期頃の作と伝われます。当時、気仙大工の腕が良いとの評判を聞いた当主が、気仙大工に頼んで作ってもらったものです。

今も、台所の壁に掛けられています。



【田尻地域：高橋家所蔵】

木製。製作年代や作者は伝わっていませんが、岩出山地域の氏家所蔵のカマ神さまと非常に良く似ています。

両家は、直線距離で約19km離れていますが同一の流れを汲むカマ神さまの流通範囲をうかがい知ることができます。

高橋家のカマ神さまは、玄関脇の部屋の長押の上から玄関を見下ろすように飾られています。



【三本木地域：石川家所蔵】

木製。耳元の荒縄の飾りが特徴的です。30年ほど前定年退職後に建具製作の技術を学んだ人が製作し石川家に寄贈したもので、今は玄関に飾られています。

三本木地域に住んでいる石川家の親戚宅には、同じ頃に岩出山の木工によって作られたカマ神さまがあります。

カマ神さまへの思いは、現代にも受け継がれています。



【松山地域：松山ふるさと歴史館所蔵】

瓦製。松山地域では、古くから瓦製造が行われ、明治の末頃には6軒で年間5万枚以上を生産しました。

生産量が最も多かったのは昭和20年頃で、年間生産量は15万～20万枚に上り、県内生産の7割を占めるほどでした。

このような地域の特性を表しているのが、瓦製のカマ神さまです。

ギャラリートーク：会場で展示解説を行います

日時：令和7年10月21日(火) 午後2時から(1時間程度)

場所：展示コーナー(大崎市図書館内) 参加料：無料

[同時開催]

宮城民俗コンパス

東北歴史博物館

宮城に生きる民俗 | 暮らしを伝えるモノ語り

10/11—12/21

石巻市博物館

宮城に生きる民俗 | 宮城の漁業

10/25—12/14

名取市歴史民俗資料館

宮城に生きる民俗 | 自治体史と暮らしの記録

10/5—12/21

多賀城市埋蔵文化財調査センター

宮城に生きる民俗 | 多賀城海軍工廠と地域の変化

10/4—12/21

松山ふるさと歴史館

宮城に生きる民俗 | 大崎・松山のカマガミ

11/1—2/23

しばたの郷土館

宮城に生きる民俗 | 仙南のくらしと道具

10/4—12/21

各施設に置いてある
スタンプを3種類集めると、
記念品(オリジナル手ぬぐい)をプレゼント!!

●1 記念品をお受け取りの際は、3館目に訪れた施設でこちらのチラシをご提示ください。(※大崎市図書館ではお受け取りいただけません) | ●2 記念品を購入することはできません。販売もご遠慮下さい。 | ●3 記念品のお渡し期間は、2026年3月末日までとなります。

東北歴史博物館スタンプ

同時開催館スタンプ